

## 2016年8月21日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 2章1～13節

説教：聖霊の働き

### 1 五旬節の由来

#### 1) 過越のいけにえ (レビ記23章5節)

今日の箇所は、教会に聖霊が初めてくださった場面として有名かもしれません。本当にこんなことが起きたのだろうか。いろいろ疑問が湧いてきますが、まずはこの出来事が起きた「五旬節」のことから見て参ります。

五旬節と言ってもなじみはないかもしれませんが。聖霊がくださったことを記念する日という意味で使われる「ペンテコステ」ということばは聞いたことがあると思います。同じ意味です。

五旬節とは五十日目のことを言います。では、いったいいつから数えて五十日目なのか。そのことはレビ記23章にあります。まず23章5節。「第一月の十四日には、夕暮れに過越のいけにえを主にささげる。」第一の月というのは、現在私たちが使っている暦に換算すると3月から4月の頃にあたるのだそうです。

過越の祭りというのは、紀元前およそ1450年頃、エジプトでとらわれていたイスラエル人たちがモーセに連れられて脱出した出来事に由来しておりますが、イエスとも深い関係があります。イエスが十字架にかかったのはいつでしたか。ルカの福音書22章7,8節。「さて、過越の小羊のほふられる。種なしパンの日が来た。イエスは、こう言ってペテロとヨハネを遣わされた。『わたしたちの過越の食事ができるように、準備をしに行きなさい。』」私たちがよく「最後の晩餐」と言っていますが、実はあれは過越の食事

だったということがこれでわかります。まずそのことを覚えて下さい。

#### 2) 五十日を数えた日 (レビ記23章16節)

次に五旬節とことです。レビ記23章16節に書かれています。「七回目の安息日の翌日まで五十日を数え、あなたがたは新しい穀物のささげ物を主にささげなければならない。」これが五旬節と呼ばれる日です。この日には、畑でとれた収穫物を携えて主にささげるようにと言われていました。また、その日にはどんな労働も仕事もせずに、聖なる会合を招集しなければならない、とも書かれています。使徒の働き2章1節に、「五旬節の日になって、みながひとつ所に集まっていた」あるのは、このような事情によることでした。

### 2 約束の聖霊

#### 1) あなたがたは聖霊のバプテスマを受ける (1章4, 5節)

でもこの時だけは、いままでにはない特別な意味合いも含まれていました。よみがえられたイエスは、四十日間弟子たちに現れたのですが、そのときこう言い残しておられたのです。1章4, 5節。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

このイエスのことばを聞いた弟子たちは、エルサレムのなかの一つの場所に集まって、

聖霊のバプテスマを待っていました。もしかしたら五旬節の日になにか起きるのではという予想はしていたかもしれませんが、でも、まさかこんな形で聖霊がくだるとはおそらく誰も考えていなかったでしょう。

## 2) 「炎のような分かれた舌」が現れる

聖霊がくだったとき天から激しい風が吹いてくるような響きが起こりました。この時の情景はなんとなく想像できます。しかし次の箇所はどうでしょうか。3節。「また、炎のような分かれた舌が現れて、一人一人の上にとどまった。」

子どもの向けにこの箇所をメッセージするときに使う絵を見たことがあります。ある出版社が出版した本の中に載っていました。その場にいた人たち全員の頭のところに手のひらくらいの大きさの炎が燃えている。そんな絵でした。おそらく誰もがそんな絵を描くでしょう。でも、どうもしっくりしません。へそ曲がりなのかもしれませんが、みなさんはどうでしょうか。

それで調べてみた。するとおもしろいことがわかりました。3節に出て来る「舌」と訳していることばは、4節にも出て来ます。日本語ではどこにも見当たりませんが、実は「ことば」と訳しているところがそうです。同じ形のことばなのに、あるところでは「舌」と訳し、次の所では「ことば」と訳している。もちろんそれにはきちんとした理由があつてのことなのでしょう。日本語では「舌」と「ことば」とはほとんど別の意味になりますが、でも英語に詳しい方はわかるはずです。英語では「舌」ということばが場合によっては「言語」「国語」という意味にもなる。そういうことを考えると、ここはこんなふうに

訳してもいいかもしれない。「すると、まるで火が燃え移るようにしてさまざまな言語がひとりひとりの上にとどまった。」

## 3) いろいろな言語で神の大きなみわざを語る

家全体を揺るがすような激しい音は、エルサレムの町中にも響き渡り、これを聞いた人たちはいったい何事かと思ひ集まって来ます。ちょうど五旬節の祭りのときでしたから、エルサレムには9節から11節にあるような国や地方から人々がやってきた。みな外国語をしゃべっている。ところが、駆けつけてみると家の中では、ガリラヤの人たちがめいめい外国語でしゃべっていた。少なくとも12種類以上のことばです。ガリラヤの人たちとわざわざ言っています。田舎者でズーズー弁しかしゃべられない人たちが、外国のことばで滑らかに語っていた。これを見てみな驚いた。

人というのは、思いがけない現象を目にしたとき、理由を捜して納得しようとするものです。でもこの時は誰も説明できない。かなりとまどっている。それでも、無理矢理にこじつけて語る者もいました。13節。「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ。」「安い酒でも飲んで悪酔いしているのさ。」今の時代も、このようにわかった振りをして解説をする人が現れるものです。ペテロは、この意見が的はずれであることをこのあと説明します。それはまた次回触れることになるでしょう。

## 4) どう考えたらよいのか

これまで多くの人たちが、今日の箇所に強く引きつけられてきました。初代教会では、聖霊が来られるのを祈りながら待っていた

ではないか。私たちも聖霊をいただくために祈るべきではないのか。祈ったなら神はこのようすばらしい奇蹟を起こしてくださるはずだ。そうしたら、多くの人たちが教会にやってきて、たくさんの人たちが救われるのだから、どんどん祈るべきだ。そのような意見もあります。

聖霊のことに関しては、右から左に至るまで実に幅広いとらえ方があって、福音派の集まりである JECA の中でもときどき問題になることもあります。意見の違いはなかなか解消されません。でも違うところに目くじらを立てるより、お互いに理解し合える共通原則に目を留める方が健全ではないかと考えます。

### 3 聖霊

1) 主がよみがえられたことの証拠として聖霊が与えられる

では聖霊のことに関して、どこに共通のわかり合える原則があるのか。聖書を読むときちゃんと書いてある。そもそもどうして聖霊がくだってこられたのか。そこを見たいと思います。ペテロが2章32、33節で説明しています。

「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。ですから、神の右の座に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。」

先週の箇所では、イエスが天に上げられた後、ペテロが最初にしたことを見ていきました。ユダが脱落したために空席になっている使徒職の後任を決めなければならないと兄弟たちを説得します。祈ってくじを引いた結

果マッテヤが選ばれて、十二人の使徒がそろった。なぜそこまでして十二人をそろえなければならないのか。いったい使徒はどんな役割を担っているのか。「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」ペテロははっきりと定義した。よみがえられたイエスを証しする者、それが使徒である。彼らは確かによみがえられたイエスを自分の目で見たし、そのからだに手も触れました。そのことを世に証ししていく。

でもペテロのことばは、もっと深いことを言っている。なぜいま聖霊がくだってくるのか。その目的は何であったのか。「神の右の座に上げられたイエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしているこの聖霊をお注ぎになったのです。」

逆の言い方をしたらわかりやすいかもしれませんが、もし、イエスがよみがえらなかつたなら、もし、イエスが天に上げられなくて墓の中に眠ったままであったのなら、どうなったか。聖霊は絶対にくだってこなかった、ペテロはそう言っている。素直な言い方をするなら、イエスが死からよみがえり、天に上げられ、父なる神の右におられるということはどうやって私たちは知ることができるのか。父なる神が直接聖霊を注いでくださったのではない。天に上げられたイエスが父なる神から聖霊を受けられ、その聖霊をイエスご自身が私たちのところに送ってくださった。ということは、聖霊が注がれたというによって、イエスがよみがえられたことがはっきりとわかる。そのような構造になっている。

2) 聖霊の励ましによって

私たちの目は、聖霊の働きによって起きて

いく大きな奇蹟や出来事に奪われがちです。奇蹟を起こすために聖霊を送ってくださいと願いたくなります。

でも私たち物事の本質、核心部分に目を留めたいと思います。そもそも皆さんは主がよみがえられた。そのことを心から信じていたでしょうか。信じていますとはっきりと告白できる方もなかにはいるでしょう。でも私もそうでしたが、心のどこかで「ほんとうかな」と疑ってしまう。そんな私たちではないですか。主はそのことをよくご存じです。「どうして信じないのですか。信仰の薄い者たち」と言って叱らない。その代わりに、よみがえりを信じることができるようにいろいろなサポートしてくださる。その一つが、聖霊なのです。

教会のなかでもし驚くような不思議な出来事が起きて、それが神のみわざであると思うのなら、それは聖霊の働きですよ。もしあなたがたの間に聖霊が働いているのなら、それは主は確かに死からよみがえられ証拠ですから。そこに目を留めなさい。

主はこのようにして弱い私たちを助けて励ましておられます。御名をあがめます。